

事業継続計画は防災サバイバル

浜松湖北高校（浜松市浜名区引佐町金指）で、L Pガス販売のエネジン（同市中央区高林5）の社員を講師に招いた防災授業があった。商業科3年の42人が、防災士の資格を

持つ杉本真一さん（48）らから、大規模災害などに備えた事業継続計画（B C P）について学んだ。

杉本さんは、B C Pの策定が感染症やテロリズムといった脅威の洗い出しにもつながるとし、「災害やトラブルが起きたときのビジネス版サバイバルマニュアルと思ってほしい」と説明。非常時にすぐに業務を再開できれば「企業価

値が上がり、つぶれにくい会社になる」と重要性を伝えた。

就職先にホテル業界を志望する嶋田瑠璃花さん（17）は、「B C Pでいろいろと想定し、備えることが宿泊客の命を守ることになると思った」と振り返った。

授業は市の「防災ユース・アンバサダープログラム」の初回。生徒たちは半年間のプログラムでさまざまな講師から災害対策の知識を学び、独自の防災ワークショップを企画・運営する。（曾根智貴）

エネジン 湖北高で対策授業

杉本さんらの話を聴く生徒たち＝浜松湖北高で



2026年（令和8年）7月16日（木）中日新聞